

浜松市の「はままつ循環経済パートナーズ (HAMACEP)」の取組みについて

浜松市環境部一般廃棄物対策課

1. はじめに

浜松市は、豊かな自然、厚い産業基盤、温暖で暮らしやすい気候風土、そして人柄に根付く「やらまいか」のチャレンジ精神など、どこにも負けない魅力と高いポテンシャルを持つ都市です。特にオートバイなどの輸送機器産業、浴衣などの繊維産業、ピアノをはじめとする楽器産業の三大産業を中心として、「製造業のまち」「モノづくりのまち」として発展してきました。

ごみ減量・資源循環の推進においては、2024年（令和6年）より、家庭から排出される一人1日当たりのごみの量を、2028年（令和10年）までに404gまで削減することを目標として「GO！みんなで404チャレンジ」をスローガンに掲げ、様々な施策を展開しています。また事業者との官民連携の取組みについても、2025年（令和7年）10月に「はままつ循環経済パートナーズ (HAMACEP)」の創設をし、「循環経済（サーキュラーエコノミー）」への移行を目指しています。

2. 創設の経緯

浜松市では、これまで官民連携の取組みとして「浜松市食品ロス削減協力店」、「はままつ脱プラスチック推進事業者」、「浜松市3R推進優良事業者表彰」の3つの制度を運用してまいりました。サーキュラーエコノミーへの移行が国家戦略として位置付けられたことを受け、さらに官民連携を促進していく必要があることから、これまで個別に進められてきたこれら3つの制度を統合して本制度を創設し、本市の資源循環事業における官民連携の一層の強化を図ります。また、本制度により事業者間の連携を推進することで、資源循環をはじめとするサーキュラーエコノミーへの移行を図ります。 **図1**

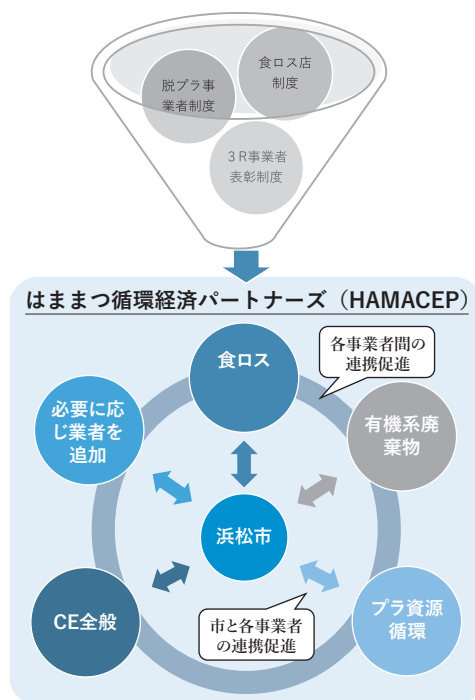


図1 制度の概念図

3. 会の活動内容

(1) サーキュラーエコノミーに関する情報共有やネットワーク形成

本サーキュラーエコノミーに関連する制度や、国や県からの情報、セミナー等のイベント情報、その他会員の取組み等について、会員のメーリングリストにて情報提供をし、横展開を図ります。

(2) サーキュラーエコノミーに関する広報活動

会員には浜松市から啓発物品を配布します。事務所や店舗の目立つ箇所に掲示し、啓発・PRを行います。 **図2**

(3) サーキュラーエコノミーに関する講演会等の開催

取組み事例を発表したり、相互に意見交換をすることで、取組みを広げ、事業者間連携を促進する場として、講演会等のイベントを開催します。



図2 浜松市作成の啓発物品

4. 令和7年度（創設年）の主な取組み

令和7年度は、10月に本制度を創設し、キックオフ講演会を開催しました（写真1）。製造業、サービス業、小売業、金融業、廃棄物処理業等、幅広い業種の方にご参加いただき、浜松市におけるサーキュラーエコノミーへの移行推進について理解を深めていただくとともに、本会への登録を呼びかけました。

講演者	内容
環境省	第五次循環型社会形成推進基本計画～循環経済を国家戦略に～
イオン株式会社	循環型ライフスタイルの定着に向けて
株式会社ミダックホールディングス	サーキュラーエコノミーに関するミダックグループの取り組み
株式会社エフビコ	エフビコモデルの循環型リサイクル



写真1 キックオフ講演会の様子

5. 令和8年度の主な取組み

サーキュラーエコノミーへの移行を更に推進するため、令和8年度は主に以下のことに取組みます。

- ・ 会員の優れた取組みを表彰する制度の創設
- ・ 民間事業者等に向けた講演会の開催
- ・ 取組事例の収集・発信等の強化による、事業者間連携の支援

6. おわりに

令和7年度末現在で37事業者であった本会の登録会員数は、令和8年5月末現在で111事業者となっています。本会は創設して間もなく、今後活動を活発化させるためには、会員数の増加を図り、多くの事業者に関心を持っていただくことが第一と考えています。また、サーキュラーエコノミーへの移行実現にあたっては動静脈連携が不可欠であるため、既存の連携事例の発信や事業者が抱える課題の情報収集等を行うことで会員同士のマッチング支援を図りたいと考えています。